

平成 29 年度第 3 回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：平成 30 年 1 月 29 日（月） 午後 1 時～午後 3 時 15 分

■開催場所：職員会館 かもがわ 中会議室

■議題：

- （1）京都市のまちづくり活動に関する現状分析について
 - ・ヒアリング結果の確認と分析
 - ・アンケートとヒアリング結果から重点ポイントを検討
- （2）平成 29 年度市民公募委員サロンの実施結果等について

■報告事項：

- （1）新たに設置された附属機関等について
- （2）市民参加推進フォーラム公募委員の募集について
- （3）市民参加に係る新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員 13 名

（壬生座長，川島副座長，竹内副座長，荒木委員，太田委員，大鳥井委員，兼松委員，芝原委員，菅谷委員，杉山委員，津田委員，松下委員，吉川委員）

■傍聴者：2 人

■特記事項：

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。

【議事内容】

1 開 会

<事務局>

ただ今より，京都市市民参加推進フォーラム平成 29 年度第 3 回会議を開催する。どうぞ，よろしくお願いいたします。私は，本日の進行を務める，京都市総合企画局総合政策室創生戦略・市民協働推進部長の松野です。

市民参加推進フォーラムは，市民参加の推進に関する事項について，市長の諮問に応じ，調査，御審議いただくとともに，当該事項について御意見をいただく機関として設置して

いる附属機関である。

まず、委員の欠席について報告させていただく。内田委員、桜井委員が御都合により欠席。また、兼松委員、津田委員、松下委員については、遅れて到着とのことである。

現在、委員数15名中、10名の委員が出席しており、出席委員が過半数を超えているため、会議の成立ということで開催させていただく。

なお、本日の会議については、後日、摘録をホームページ上で公開するとともに、インターネットの動画配信サービスである「ユーチューブ」を利用した音声配信を行うので、御了承いただきたい。

以降の議事進行については、壬生座長をお願いをする。

2 座長挨拶等

＜壬生座長＞

本日は、寒い中、お集まりいただきありがとうございます。

本日も議題が多いが、できるだけ時間内に終わるよう進めたいので、御協力をおねがいたい。

では、まず、本日の議題及び報告事項の流れについて、事務局から説明をお願いします。

＜事務局＞

議題は「(1) 京都市のまちづくり活動に関する現状分析について」「(2) 平成29年度市民公募委員サロンの実施結果等について」の2つである。その後、報告事項が3件ある。

議題(1)で80分程度、議題(2)で15分程度、その後の報告事項で15分程度を見込んでいます。

3 議題

議題(1) 京都市のまちづくり活動に関する現状分析について

＜壬生座長＞

では早速、議題1「京都市のまちづくり活動に関する現状分析について」から始める。まずは、どのように議論を進めていくのか、事務局から説明をお願いしたい。

＜事務局＞

資料を御覧いただきたい。

前回の会議において、「京都市のまちづくり活動に関するアンケート」について御議論をいただいたものが、資料4である。

その後、昨年10月から11月にかけて、フォーラム委員の皆様と事務局の職員で、まちづくり活動をされている8つの団体にヒアリングを行った。ヒアリングの結果内容についてまとめた記録シートが、資料3である。さらに、ヒアリング内容から見えてくるも

のや考えられる事を、事務局案として、資料2にまとめた。まずは、この事務局案について、御確認いただきたい。ここまでで、30分程度と考えている。

次に、資料1である。上段にアンケート結果の考察を記載している。中段には、この後御議論をいただくヒアリングの結果の考察の事務局案を記載している。本日は、これらのアンケートとヒアリングの両方から見えてくる重点的なポイントを議論いただきたい。

<壬生座長>

ありがとうございました。

80分の中で、議論することが2つある。まずは、資料2の「ヒアリング内容から考えられること」としてまとめられたものがこれでよいか、何か補足することはないかという御確認をいただく。

次に、このヒアリング結果の考察と、前回のアンケート結果の考察から、フォーラムとしてどういうところに着目をするのかをみんなで考えていきたい。

まずは、ヒアリング内容から考えられる事について議論をしたい。事務局から、資料2について説明をお願いします。

<事務局>

資料2について説明するために、まずは、資料3を確認いただきたい。10月から11月にかけて8つの市民活動団体にヒアリングをしていただいた内容をまとめている。

(資料3 「ヒアリング記録シート」下線を引いた部分を中心に説明)

この内容について、さらにまとめたものが、資料2である。

資料2は、「第2期市民参加推進計画改定版」のP35に示している「市民のまちづくり活動のフェーズ」と連動している。まず、「まちづくり活動への関心が高まり、参加する」のフェーズが、資料2のP1～2である。次に、「まちづくり活動が成果を挙げ、継続的に活動する」フェーズが、P3～4、最後に、「多様な主体と協働する」フェーズが、P5～6となっている。

資料3で下線を引いた部分から考えられることを、資料2では、上段「考えられること」の欄に事務局案として記載している。また、関連する市の取組等を下段に備考として記載している。

(資料2 「ヒアリング内容から考えられること」説明)

<壬生座長>

ありがとうございます。質問があれば、発言いただきたい。

(委員より発言無し)

<壬生座長>

質問がないようなので、内容に移る。皆さんが、ヒアリングで聞き取って来られた内容で、大事だと思った点など、どのようなことでもよいので、気づいたことを発言いただきたい。

<吉川委員>

私は、ヒアリング記録シートP10の、そらたねプロジェクトの松野さんにヒアリングをした。この方は立命館大学の学生で、他大学のグループとも連携をして活動をしているとのことだった。学生は、毎年のようにメンバーが変わっていくので、活動をどのように引き継いでいくのかということをお悩んでおられた。

メンバーの更新と共に、連携が途切れてしまうと、以前の内容を確認することに大変なエネルギーがかかると言っておられた。

行政や、誰か外部の者が関われるということでもないのかもしれないが、組織の中で、世代間でどのように活動を引きついでいくかという課題があった。

<壬生座長>

今の御意見は、学生の活動から出てきたということであつたが、最近では、自治会などにおいても任期が短くなりつつあると聞いている。継続的な活動が難しいということは、他からも聞くところがある。

<兼松委員>

ヒアリング記録シートP8の、梶文庫の西尾さんにヒアリングをした。情報発信について、印象に残った話があった。

梶文庫は、サンケイリビングにとりあげられたことがあるが、この時、本来増えてほしかった利用者は増えずに、本を寄贈したいという人だけが増えた。普段は、地域の公園でのイベントに出て、活動をPRしている。どういうところでどういう風に情報発信をしていくかによって、届き方が全く変わってくる。

特に、近くの小学生などで、居場所が無い子供に来てほしいというときには、まんべんなく学校などでPRできた方が、来てほしい人へ情報が届きやすい。ターゲットから逆算すると、“公式”な、“認められた”組織の協力があつた方が良い。

情報発信は、目的によって、方法を変えなければいけない。大きな媒体で取り上げられることは、きちんと活動をしているという安心感につながるだろうが、知名度が上がることで、活動が思うように進むこととは必ずしも一致しないという、印象的な事例だった。

<杉山委員>

ヒアリング記録シートP6のくらしごとの中岡さんにヒアリングをした。補助金につい

ての話があった。

ここは、古い民家を借りて、そこを拠点として活動をしている。家賃や光熱費に充てられる補助金があればとても助かるということであった。

資料2のP4に記載されている「区の補助金は比較的自由度が高く、活動団体と区役所との接点をつくる良い機会となっている」は、他のヒアリングではその通りだと思うが、対象費目については、もう少し広がりがあってもよいという気がする。この点は、難しいかもしれないが、だからこそ、もう少し顔の見える範囲で補助金を出せる仕組みを作ると、使う側も使い勝手がよく、活動の幅も広がるような、双方にとって良い補助金となるのではないか。

<芝原委員>

杉山委員と一緒にヒアリングへ行ったので、今の話に補足したい。ここの団体は、居場所づくりを目的として、借家をコミュニティスペースとして活用している。

そのため、居場所にかかる経費の費目は「家賃」や「光熱費」となり、いわゆる事務所家賃と同様のものと判断されて補助金の対象外となってしまうとおっしゃっておられた。

もう一点は、地域組織との連携というところで、「自治会・町内会とは時間をかけて良い関係を築いていきたい」と書いてもらっているが、この団体は、町内会に加入したいという申し出をされているが、まだうまく進んでいないとのことであった。このような場合に行政のフォローがあれば、何か変わってくるのではないかという印象を持った。

<川島副座長>

今の話とつながりがあると思う。私は、ヒアリング記録シートP7の元真如堂町町内会で活動をされている中谷さんにヒアリングをした。この方は、ずっとこの町内会の地域にお住まいだったわけではなく、他府県から引っ越してこられた方だった。町内会の役員さんとうまく関係性が出来るようになってから、ようやく活動が広がってきたということをおっしゃっていた。町内会と、何かテーマを持って活動をされる方は、重なりにくいことがある。自治会単位で活動をされていても、自治会と異なる活動もあることを認識することが大事である。芝原委員の意見にもあったように、その点を、なじみやすくするための後押しがあったらいいのではないか。

<太田委員>

私は、ヒアリングシートP5の、ふれあい吉祥院ネットワークの田中さんへヒアリングした。補助金は、対象者を絞らずにみんなが楽しめるようなお祭りやイベントについては、あまり活用できないとおっしゃっていた。

私は、上高野のくらしごとの活動をされている町内会の方に知り合いがいる。私自身も覗くことがあるが、蔵でパンを焼いたり、マルシェで野菜を売ったりして、若い人も多く

楽しいイベントをやっており、地域にも認識されている。

地域の町内会などとのつながりが少ないということであるが、例えば、地域の人がこのように集まれる場所を選定して、モデル事業として特化して、補助金などを出すことで、広がりを作り出せるといいのではないかと感じた。

<竹内副座長>

なぜ、ヒアリングで聞いた話をここで共有しているのか改めて整理したい。

資料1の下段の、空欄になっている「重点ポイント」を、本日、フォーラムの中で決めていく。資料上は、8つの枠が用意されているが、ここはいくつになっても構わない。

今年度は、市民によるまちづくり活動について、アンケートとヒアリングを実施した上で、今後、京都市がどのような支援が求められているのかを考える材料を出すことがゴールとなる。そのため、この「重点ポイント」を出すのが、本日の到達点である。

そのような視点で、今ある資料に追加できる要素を、この場で発言いただければと思う。

<吉川委員>

私は、P11のきょうと未来の運動会実行委員会の村岡さんにもヒアリングをした。もともと、この方は、地域貢献をしようとか、地域のコミュニティに参加しようという発想がなかった。御自身でイベントをするのが目的で、運動会をやったらおもしろいと思って始めた。企画過程で、東山いきいき市民活動センターの所長から、ここでやりましようと言われ話が進んだ。ビジネス的な発想で、どのようにしたら人が楽しむかとか、盛り上がるのかということに関心があり、結果的にこの場所でやることになった。

ところが、実施してみると、地縁がないために、地域の方の参加が得られなかったのも、それが今後の課題だとおっしゃっていた。

ただ、地域への貢献という発想ではなくても、このような活動は意味があると思う。

<壬生座長>

私も吉川委員と一緒にヒアリングへ行ったが、地域の方と調整をしなかったのも、地域の運動会と日が重なってしまったとおっしゃっていた。次回は、地域の人ともっと関われば、もっと楽しくできるだろうという話をされた。

村岡さんが東山でやろうというきっかけを提供したいいきいき市民活動センターの方のような、つなぐ役割を担う人の重要性を感じた。

<大鳥井委員>

私は、P1の京都ピアノとうたの音楽ひろばの上平さんにヒアリングをした。自治会や町内会との連携がうまくいかない原因として挙げておられたのは、自治会の方々は自分の活動に精いっぱい余裕がないのではないかとということであった。また、こういった活動

をしていると、変わった人という目で見られやすく、そのことでうまくつながれないとおっしゃっていた。

<荒木委員>

みなさんご指摘のことはもっともだなと思う。私自身も町内会の役員もやっているし、60年以上、留学生の交流事業もやっている。それぞれを結びつけるのはとても大変だと感じる。

町内会とうまくつながらない場合もあるが、活動する人と町内会の担当役員との相性もあると思う。人間同士で口説き落としていかないといけない。

私は、国際交流会館とも長く関わりを持っているが、外国人留学生に、地域の運動会に参加をしてもらおうと思ったことがあった。当初は話が進まなかったが、数年間、地域の人と地道に話を続けているうちに、歓迎されて参加するようになっていった。

この経験からも、根気強く口説き落とすことを続けたいといけないと感じている。

一方、町内会は、その町内に住んでいる人の活動なので、事務所や活動の場がたまたまそこにあるグループに入ってもらっていいのか、会費はどうするのかなどの具体的な問題がある。これらのことは、代表者同士がしっかりと話し合う必要がある。

<菅谷委員>

私も、地域がどうあるべきかを考えて活動をしている。今回の資料は、うまくできている。資金、活動拠点、継続性、自治会との関わりといった要素は、一つでも欠けると活動に支障が出る。

地域には空き家、防災、民泊等の問題がある。空き家の補助金は3年の期限が過ぎたので、これ以上はもらえない。しかし、空き家問題は、単年度で終わる問題ではないので活動を継続している。私たちは、これまでに空き家問題で集めた知見などを基に本を出版し、その販売利益等を活動資金に充てている。

このように、自分達で資金を調達する意気込みがないと、活動が継続できないと思う。

自治会との関係はとても大事である。私の地域の取組は、行政との連携がうまくいっている。また、多様なグループの協力を仰ぎ、様々な専門家にも関わってもらいながら活動を進めており、他府県からの視察もたくさんある。

僕は、P5のふれあい吉祥院ネットワークの田中さんにヒアリングをした。この方は、10年経って、やっと地域の人に認められるようになったと言っていた。

地域活動としてやっても、お金儲けなのではないかと思われることも多々ある。課題解決のために継続してやっていると、だんだん認知度が高まり、町内会などにも情報してもらいながら活動を続けることができる。モデル事業となれば、行政がコンサルタントを連れてこられ、コンサルタントの方が全部やってくれたりもするが、行政の事業は一般的に2年程度で終わるので、それ以降も活動を続けるには、多様な人の協力が必要である。

<松下委員>

資料を見て、課題や問題、背景がよく抽出されていると思った。ヒアリングを実施された委員にお尋ねをしたい。対象者の方にとっては「活動を通じて感じていることを聞いてもらう機会がなく、やっと聞いてもらえた。」「ヒアリングを通じて、今まであまり考えたことが無かったことについて、新たな気づきがあった。」といった意義があったのではないか。

<川島副座長>

私がヒアリングをした中谷さんは、何か溜めている思いがあってここまで言えた、という感じではなく、自分達の経験が他の方の役に立てばうれしいという想いで、受けていただいた印象である。

<竹内副座長>

他の活動に対してのヒントをいただけたような方を、ヒアリング先として選定しているので、川島副座長がおっしゃったようなところが多かったのではと思う。

私がヒアリングを実施したお2人は、改めて自身の活動を振り返るきっかけにもしていただいたように思う。

<菅谷委員>

まちづくりの苦労話が共有できたという印象だった。

<壬生座長>

ここまでの話で、いくつかの要素が出てきた。活動の継続性をどのように確保するかということ、自治会・町内会と、その他の活動の協力関係を深める必要があること、活動自体を長く続けることで、認知度が広がり協力の幅も広がるということ、が主な御意見だった。

ここからは、今いただいた御意見も踏まえ、まちづくり活動の現状分析として、フォーラムが、どのようなことを重要とするのかを考えたい。進め方について、事務局から説明をお願いする。

<事務局>

資料1において、前回の会議で議論いただいた、アンケートの結果から見てきたことが上段の青い部分、ヒアリングの結果について暫定的に事務局が書いたものが、中段の緑の部分である。中段には、先ほど議論されたことも新たに加え、ここからは、委員の皆様にも3つのグループに分かれていただき、まちづくり活動を活性化させるための重要ポイント

トについて、3つのフェーズごとに、抽出していただきたい。

＜壬生座長＞

今回のワークの目標は、フェーズごとにアンケートの結果とヒアリングの結果からフォーラムとして大事と考える点を抽出することである。では、グループに分かれて話をしていただきたい。

（フェーズ1～3のグループに分かれ、フォーラムの視点で重要ポイントと考えることを議論）

■フェーズ1：まちづくり活動への関心が高まり参加する

（壬生座長，大鳥井委員，兼松委員，芝原委員）

- ・ 「まちづくり活動への参加」とはどの状態を指すのか，考えを整理する必要がある。
- ・ アンケートからは，「社会や地域をより良くしたいという想いから活動を始めた人が多い」とのことであるが，“想い”を持つ瞬間をどう作るのか？
- ・ まちづくり活動への関わり方として，受益者・活動する側・リーダーという役割がある。
- ・ 「参加」を増やすためには，そもそもの活動の受益者（＝分母）を増やす必要があるのではないか。その中で，興味を持った人が，活動する側となり，リーダーとなっていく。分母を増やすには，活動の案内・呼びかけを効果的に行う必要がある。
- ・ アンケートからは，紙媒体がまだまだ効果的であるとか，若い世代に情報を届けるには，紙媒体に加えてインターネット等が効果的であるということが読み取れる。一方，ヒアリングからは，情報を届けるには，アウトリーチを積極的に行うことが望ましいという方向性が見えてきた。情報は，WEBに掲載しているだけでは，届かない。「口コミ」「顔の見える人の紹介」「縁」といったものが掛け合わされることで，受け取る側にとって優先順位の高い情報となる。まちづくり活動における受益者・活動する側・リーダーの，誰にどの情報を伝えたいのかを意識し，「誰から」「どこから」「どの時期・タイミングで」受け取ると，彼らにとって優先順位が高い情報となるのかを整理して発信することが重要である。

■フェーズ2：まちづくり活動が成果を挙げ，継続的に活動する

（竹内副座長，菅谷委員，津田委員，松下委員，吉川委員）

- ・ 補助金は，まちづくり活動のスタートアップを支援する際には，費目が広く認められることが理想である。しかしながら，行政の補助金の原資は税金であるので，問題がない活動であることの見極めが必要となる。
- ・ ヒアリングから，区役所の補助金は，活動団体と区役所の接点作りに役立っているということであった。

- ・ 補助金や情報発信支援などを利用することは、自身の活動を見直すツールにもなり得る。
- ・ まちづくり活動を継続させるため、様々な社会の資源をマッチングしたり、必要な情報を提供したりするアドバイザーの役割が重要である。
- ・ 専門家の派遣制度については、まちづくり活動に対して方向性を示したり、検証をしてもらえると、地域にとってもありがたい。
- ・ 補助金申請や情報発信、仲間集め、活動の見直し、地域におけるまちづくり活動の検証などの点において、「まちづくりアドバイザー」等の専門家のアドバイスやマッチング、追跡、検証の能力をもっと効果的に利用できるような働きかけがあるとよい。

■フェーズ３：多様な主体と協働する

(川島副座長，荒木委員，太田委員，杉山委員)

- ・ 交流会について、アンケートでは「不足している」「充実している」という意見が拮抗しているが、そのような場があることを知っている人と知らない人で、評価が分かれているのではないか。区役所のまちづくりカフェについては、参加者は多いものの、ヒアリングによると、顔ぶれが固定されがちということだ。これまでに来ていないような、例えば企業や町内会の役員などが興味を持って参加するようなテーマを、回によって工夫することで、顔ぶれを固定しすぎず、風通しのよいイベントに出来るのではないか。
- ・ 交流会・連携創出、補助金、活動の普及、啓発といったニーズがあるが、区役所のまちづくりカフェや、市民生活総合センターのメールマガジン、区役所の補助金、まちづくりアドバイザーなど、様々な取組がある。「不足している」わけではなく、適切な情報が共有されていないせいでそのように感じているのではないか。
- ・ ニーズの高い支援策について、例えば、交流会と補助金を関連付け、補助金を受ける人は交流会でプレゼンテーションをしなければならない、というような企画があると、状況に変化があるのではないか。

議題（２）平成２９年度市民公募委員サロンの実施結果等について

< 壬生座長 >

では、議題２に移る。平成２９年度市民公募委員サロンの実施について、事務局から説明をお願いします。

< 事務局 >

(資料５ 「2017 年市民公募委員サロンだより」説明)

< 壬生座長 >

来年度の公募委員サロンの企画の参考にするために、今回参加された委員の皆様に、課題・改善点・感想などをお聞きしたい。

<川島副座長>

大学のゼミ生を連れて参加した。学生が、今回のチラシを見て自ら参加するということは、まず無いと思う。しかし、参加した学生からは「難しいところもあったけれども、自分の住んでいる地域の消防団や夜回りの活動等を思い起こしながら聞いていた」という感想が出ていた。そういった活動が、市民参加なんだと知るとは、大事なことだと感じた。今回のように、若い世代の人たちに声をかけて参加してもらうことは、意義があると思う。

<兼松委員>

学生を連れてくる方法が知りたい。サロンは楽しかった。

<竹内副座長>

公募委員ではない、一般参加の市民の方と同じグループで話をした。「市長に聞きたいことがある」という想いで参加をされていた。サロンがそのような場ではないということは御存知だったが、お話しする中で、自分の知りたいことについて、市長に直接聞くだけではなく、「市長への手紙」など様々な方法があることを知り、納得されていた。

今回、吉川委員の発案で、市民公募委員以外にも参加を呼び掛けたのは、良かったのではないかと感じた。

<壬生座長>

会議の終了時間も迫っているので、他にお気づきの点があれば、事務局にお知らせをいただきたい。来年度も、サロンは開催すると思うので、皆さんからいただいた意見も踏まえながら、新しい企画を考えたいと思う。

4 報告事項

報告事項（１）新たに設置された附属機関等について

<壬生座長>

では、報告事項に移りたい。新たに設置された附属機関等について、事務局から、資料6の説明をお願いしたい。

<事務局>

（資料6「新たに設置された附属機関等に係る『附属機関等の設置・開催等に関する協議書』について」説明）

<壬生座長>

以上の説明について、質問や意見があればお願いしたい。

(委員より発言無し)

<壬生座長>

意見が出ないようだが、後から気が付いたことでも、何かあれば、事務局へ知らせていただきたい。

報告事項（２）市民参加推進フォーラム公募委員の募集について

<壬生座長>

では、報告事項（２）（３）について、まとめて事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料７ 「京都市市民参加推進フォーラム委員公募のお知らせ」について)

長らく就任いただいた、市民公募委員の荒木委員、太田委員、吉川委員の３名が、今年の３月いっぱいをもって退任となる。これに伴い、現在、公募委員の募集をしているところである。募集は、平成３０年１月１９日から、２月２８日までである。

報告事項（３）市民参加に関係する新しい事業や取組について

<事務局>

(資料８ 「市民参加に関係する新しい事業や取組」について)

最近、新しく始めた市民協働に関係する新しい事業や取組をピックアップしているので、お目通しを願いたい。

５ 閉会

<壬生座長>

本日の議題と報告事項については、これで終了となる。御協力、ありがとうございました。閉会前に、傍聴の方に、本日の会議についての感想をお聞かせ願いたい。

<傍聴者１>

新たに設置された附属機関等の報告について、いつも感じているのだが、専門性が高いことと、公募しないということが、直接結びつくとは思えない。例えば、京都は大学のまちなので、大学の先生は非常に多くおられる。「学識経験者」という枠は、形式的には、行政が選んだ方ということになるが、学識経験者でも公募をすればいいのではないかと考える。

また、会議の公開について、公開するとは言うが、会議の開催について3日前に公表された例もあると聞いている。そうすると、なかなか出席できないのではないか。もう少し早めに市民に知らせるべきではないのか。基準などは設けられていないのか。

<壬生座長>

京都市は、会議開催の何日前までには公表するといった規定を持っているか。

<事務局>

特に規定はないが、通常は、会議が決まった時点で公表をすることになっている。3日前というのは、特別な事情があったのかどうかはわからないが、稀なケースである。

<壬生座長>

ただ、そのようなことが1回でもあるのなら、よろしくない。早めの公表については、庁内で調整して、徹底するようにお願いをしたい。

もうひとつ、附属機関等の委員の専門性については、難しいところだと思う。私も、他都市の附属機関において、市民公募委員として参画された方が、非常に専門知識を持っておられ、貴重な意見をいただけた経験がある。今のお話を伺い、そのあたりも考えていく必要があるのではと感じた。

<傍聴者2>

たまたまチラシを見て、本日傍聴をさせていただいた。こんなにも市民参加について議論されている会があるということを知らなかった。お話を聞いていて、すごくおもしろいと感じた。

私は大学生だが、こういうことを知っている大学生はいないと思う。情報発信についても話題となっていたが、こういった会議があるということをもっと情報発信していけたら、市民参加の輪が広がるのではないかと感じた。

<壬生座長>

ありがとうございました。本日はこれで閉会とさせていただく。委員の皆様、ありがとうございました。

<事務局>

本日も、長時間にわたり熱心に議論いただき、大変ありがとうございました。本年度は、あと1回の会議を残している。最後まで引き続きよろしくお願いします。

以上